

評価表の様式変更について

●変更内容

変更前は、「小項目評価」、「大項目評価」及び「中期目標・計画と大学自己評価」をそれぞれ別の資料に分けていた。

変更後は、「中期目標」、「中期計画」、「年度計画」、「大項目評価」及び「小項目評価」を横並びにして一覧化する（広島市議会提出様式に統一する。）。

変更前

**【小項目評価】**

小項目評価：大項目①「教育」内		広島市公立大学法人評価委員会による評価		公立大学法人広島市立大学による自己評価		特記事項
小項目名	記号	評価理由等（右の評価と異なる場合の理由など）	記号	評価理由等		
全学共通教育内容の充実（小項目①）	a		a	<p>【3学部合同基礎演習の実施、第3期中期計画期間に向けた評価・総括】（自己評価：a）</p> <p>3学部混成の少人数クラス（1クラス11人～12人）による必修科目「3学部合同基礎演習」（1年次前期）は、コロナ禍の中、担当教員等が効果的な授業となるよう工夫しながらオンラインで実施した。レポートの書き方、プレゼンテーションと議論の仕方などのリテラシー教育を中心に行った。このうち第3回に図書館がイダダスを実施した。第7回から第15回は、「いちだいのトライアスロン」事業と連動させ、同事業のスタートアップコースに当たる読書2点、映画鑑賞1点、美術鑑賞1点を必要条件に、4点以上のレポートの採点を推奨した。同演習により、学部を越えた学習集団の形成が促進したほか、学生は幅広い教養と自己表現能力を養うことができた。</p> <p>講義終了後の学生アンケートでは、令和2年度と比較して概ね変わりなく、肯定的な回答が過半数を占める結果を維持していた。また、この学生アンケートの結果を基に、3学部合同ゼミワーキンググループにおいて授業の振り返りを行ったほか、令和4年度担当教員を対象に教員説明会（授業説明、授業事例発表）を開催し、授業の共通理解を図った。</p>		

**【大項目評価】**

大項目評価		広島市公立大学法人評価委員会による評価		公立大学法人広島市立大学による自己評価		特記事項
大項目名	記号	評価理由等（右の評価と異なる場合の理由など）	記号	評価理由等		
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置 1 教育（大項目①）	a		a	<p>【小項目①】全学共通教育内容の充実（自己評価：a）</p> <p>（3学部合同基礎演習）</p> <p>3学部混成の少人数クラス（1クラス11人～12人）による必修科目「3学部合同基礎演習」（1年次前期）は、コロナ禍の中、担当教員等が効果的な授業となるよう工夫しながらオンラインで実施した。レポート作成方法等のリテラシー教育やいちだいのトライアスロンの活用等を通じて、学生は幅広い教養と自己表現能力を養うことができた。</p> <p>（いちだいのトライアスロン）</p> <p>読書、映画鑑賞、美術展鑑賞を奨励する「いちだいのトライアスロン」事業は、3学部合同基礎演習や入学前教育とも連動させたことにより、感想レポート及び推薦コメント提出件数は第2期中期計画期間中最多の2,886件に達し、目標値（年間2,000件）を上回った。また令和3年度は、トライアスロンコースを達成した3人の「知の達人」（全員4年生）が誕生した。</p> <p>（ランゲージチューター制度）</p> <p>日本人学生と外国人留学生在が母語を教え合う「ランゲージチューター制度」では、コロナ禍のため、前期はオンラインでレッスンを実施し、感染状況が改善した後期からはオンラインと対面を併用した。令和2年度と比べ、活動人数は減少したものの、活動実績は上回り、一人ひとりの活動内容は充実したものとなっている。</p>		

**【中期目標・計画と大学自己評価】**

中期目標	中期計画	令和3年度の年度計画	大学自己評価	該当ページ
			大 小 個別	(資料8)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標	第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置			
1 教育に関する目標	1 教育（大項目①）		a	3～5
① 教育内容の充実	① 教育内容の充実（小項目①）		a	15～16
各学部及び研究科における質の高い教育を行うとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するため、各学部及び研究科の特色を踏まえ幅広い教育の充実を図る。加えて、地方創生に取り組む「地（知）の拠点大学」として、地域との連携・協働により、多様な環境下での実践的な教育を推進する。	① 多様な価値観に触れ、多様な視座・研究アプローチを学ぶため、国際学、情報科学及び芸術学という特色ある学部構成を生かし、必修科目として3学部合同ゼミを開講する。	○3学部合同基礎演習の実施、第3期中期計画期間に向けた評価・総括	a	15
	① 学生が、読書、映画鑑賞及び美術鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けられるよう、「いちだいのトライアスロン」事業のより一層の充実を図る。平成33年度までに、「いちだいのトライアスロン」事業に係る感想レポート及び「おススメコメント（他の学生に本や作品を推薦するという視点で作成するコメントをいう。）」の提出件数を年間2,000件（平成26年度1,012件）にするとともに、附属図書館入館者数を年間90,000人（平成26年度84,672人）にする。	○「いちだいのトライアスロン」事業の活性化、第3期中期計画期間に向けた評価・総括	a	15
また、「国際平和文化都市」を都市像とする本市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、グローバル化への対応力を育成するための教養の充実を図る。	① 外国語による実用的・実証的なコミュニケーション能力を向上させるため、授業内容の改善等により、英語及び第2外国語教育の充実を図る。	○英語及び第2外国語教育の充実に係る方策の実施、第3期中期計画期間に向けた英語教育及び第2外国語教育の充実に係る評価・総括 ○留学生を活用した実証的外国語会話プログラムの実施及び標準化・改善	b a	16

変更後

**【中期目標、中期計画、年度計画、大項目評価、小項目評価を横並びにして一覧化する】**

中期目標	中期計画	令和3年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等（左の評価と異なる場合の理由など）	記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標	第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置					
1 教育に関する目標	1 教育（大項目①）				a	<p><b>大項目評価</b></p> <p>教育方法等の改善のための取組を計画どおり着実に実施し、全学共通教育内容の充実、学部専門教育内容の充実、大学院教育内容の充実及び国際社会及び地域の第一線等で活躍する人材の育成、平和関連教育など特色ある教育内容の充実について優れた取組を実施したことから、教育全般について優れた取組を実施したとして、「a」と評価した。</p>
① 教育内容の充実	① 教育内容の充実（小項目①）	○3学部合同基礎演習の実施、第3期中期計画期間に向けた評価・総括			a	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○次のとおり取り組んだことから、自己評価を「a」とした。</p> <p>3学部混成の少人数クラス（1クラス11人～12人）による必修科目「3学部合同基礎演習」（1年次前期）は、コロナ禍の中、担当教員等が効果的な授業となるよう工夫しながらオンラインで実施した。</p> <p>具体的な講義内容は、第1回にイントロダクションを、第2回から第8回までに文書の読み方及び要約の作り方、レポートの書き方</p>